

辞世（吉田松陰）

吾今國の為に死す

死して君親に負かず

悠悠たり天地の事

鑑照 明神に在り

吾今爲國死 死不負君親  
悠悠天地事 鑑照在明神

解説 國の為に命を捨てようと処刑されるに及んで辞世を詠んだ。

語釈 ※辞世＝臨刑の詩と言われる。※君親＝君公と両親。※悠々＝遠くはるか果てしないこと。※鑑照＝鑑は鏡で自分の姿を写し戒めとすること。神仏が御覽になる。※明神＝神を崇んで言う言葉。

通釈 今、私は國の為に命を捨てようとしている。ここで死んでも全て國の為を思つてしたこと、君公と両親の恩義にそむくところは少しもない。天地間のことは、悠々として果てしてもない。この忠誠こそ神のみが御覽下さつておられるのである。